



JICA研究所  
プロジェクト・ヒストリー・ミュージアム  
JICA Project History Museum

# 車いす、アジアの町に行く

## アジア太平洋障害者センターの活動

写真提供 二ノ宮アキイエ



APCD(ノバンコク)

2002年12月、タイ・チャトゥロン副首相、日本大使館時野谷大使、JICA藤本副総裁の出席により、APCDのオープニング式典が行われた。



APCDの正面玄関。段差がなく、車いすでも館内に入りやすい。



APCDの事務部門。移動しやすいように広めのスペースがとられている。



## APCDでの研修の風景。



バリアフリー化に配慮されたAPCDのトイレとエレベーターホール。エレベーターには、ドア開閉時に音声案内が流れる仕組みが施されている。



APCDがESCAPと共同で開催している南南協力セミナーの風景。各国から障害者施策担当省庁の代表を招き、2日間にわたって行われる。



全盲障害者による全盲障害者へのICTアクセス研修の様子。



バンコクの街路。段差や支柱が多く、車いすの移動には不便な面も。



空港でも、出発ゲート前の待合スペースへは車いすでは下りられない。





# タイ障害者自立生活センター

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1  
日本橋三井ビルディング10F  
TEL 03-5561-3111 FAX 03-5561-3112  
E-MAIL [info@thslc.or.jp](mailto:info@thslc.or.jp) [www.thslc.or.jp](http://www.thslc.or.jp)

ナコンパトム県の障害者自立生活センター(ILC)での研修の風景  
(手前後向きの車いす男性はヒューマンケア協会の中西正司)





インド

## インドで子供たちに囲まれるトポンとサワラック



## インドで子供たちと握手をするトポン



子供たちとの集合写真に臨むトポンとサワラック。





# パキスタン

2005年6月、バンコク南南協力セミナーに参加し、発言するカリード局長（社会福祉・特殊教育省）。向かって右隣がNGO「STEP」のアティブ代表。



DPIイスラマバード事務所でCBSHOD開催の打合せを行う関係者。



DPIイスラマバード事務所でCBSHOD開催の打合せを行う関係者。



2005年9月、イスラマバードで開催されたCBSHODの閉会式で挨拶するイジャズウル・ハック宗教大臣。



2005年10月、パキスタン北部大地震の後、イスラマバードで被災した女性たちと対話を行うトポン。



2005年10月、パキスタン北部大地震の後、イスラマバードで被災した女性たちと対話を行うトポン。



2005年12月、STEPを訪問したAPCD一行。前列向かって右からトポン、サワラック、カニタ所長。後列にSTEPアティブ代表、ニノ宮専門家の姿も見える。



2005年12月、イスラマバードで開催されたセミナー「被災地におけるバリアフリー社会の構築に向けて」。





# パプア・ニューギニア

パリ村での障害者調査で調査項目の確認をするトポンとキャロル・キドー大臣(コミュニティ開発担当)。



## パリ村での障害者連合会結成式典。



2007年2月、パプア・ニューギニアCBSHOD開催前に、CBSHOD組織委員がキャロル・キドー大臣を表敬。立っているのがキドー大臣。トポン、中西庄司、タイ政府高官、DPIタイ職員、PNG障害者代表の姿が見える。



2007年2月開催のCBSHODに、PNG障害者団体代表、DPI代表、APCDチームとキャロル・キドー大臣が、テレビ局の取材を受ける。



CBSHODの合間に打合せを行うキドー大臣(左)とトポン、中西正司。



CBSHOD開会式。右から、西山肇日本大使、マイケル・ソマレPNG首相、キャロル・キドー大臣、オンポン・タヤスツチタイ政府代表（社会開発・人間の安全保障省）。



# キルギス



キルギス労働・社会開発大臣から羊毛製の帽子の贈呈を受ける二ノ宮。



キルギスCDSHOD準備に向けた、イシク・クル湖での研修会議での集合写真。



2008年10月、キルギスCDSHOD開催前にJICAキルギス事務所で打ち合わせを行うAPCDチーム。左からグーラム（パキスタンから参加）、サワラック、ニノ宮、カニタ。国連機関と国際NGOを招き、障害者の権利条約について研修を行った被害者の権利条約について研修を行った。



イシク・クル湖で獲れた魚を見るCDSHOD準備会合参加者。



AJU自立の家事務局長・小倉國夫(左)と二ノ宮。



キルギスCDSHODの進行を見守る二ノ宮。



2008年10月、キルギスCDSHOD開会式における参加者の集合写真。





フィリピン

第1回「障害者にやさし町づくり」研修におけるジェイミー・シルバ(左)とアーモンド・マイケル・ユースタキオ(中)。



マニラから北へ270km、ヌエバビスカヤ州に向かう途中にあるルソン島北部山岳地帯の峠に置かれた石碑。第二次世界大戦末期の日本軍と連合軍の激戦地跡を示す。



戦没者追悼碑。この地では日本兵だけで1万7000人の戦死者が記録された。



2008年11月に開かれた、「アクセスのよい環境作り(Non-Handicapping Environment)に向けた知識創造マネジメント」研修のひとコマ。



フィリピンでの食事。



「アクセスのよい環境作り(Non-Handicapping Environment)に向けた知識創造マネジメント」研修の一環でSMスーパーモールのショッピングセンターの1つを訪ねた一行。



「アクセスのよい環境作り(Non-Handicapping Environment)に向けた知識創造マネジメント」研修における二ノ宮(左)、カニタAPCD所長(中)、アーニー・ガルシアSMスーパーモール社長(右)。



障害者にやさしい町づくりの全国研修開催に向けた関係団体協議。松浦正三JICAフィリピン事務所長、社会福祉開発省のパブロ、国家障害者福祉協議会のカタリーナ等を交え、マニラのレストランで夕食を交えて開催された。

